

# KANTEI

## NEWS

---

vol. **179**  
2026

---

### CONTENTS

倫理綱領

- 1 会長挨拶
- 3 退任挨拶
- 4 理事会開催報告

- 7 定時会員総会開催報告
- 13 研修開催報告・予定
- 16 会員情報



公益社団法人 日本損害鑑定協会

# 鑑定協会 倫理綱領

(2021年3月25日 理事会承認)

## ◆前文

公益社団法人 日本損害鑑定協会（以下「本会」という）は、多発する自然災害をはじめとするさまざまな事故によって発生した損害に対して、公正且つ迅速な損害鑑定を推進し国民生活の安定・向上に貢献することを目的として事業を展開する。

そのために、会員及び会員に所属する損害鑑定人（以下「損害鑑定人」という）は、鑑定技能及び鑑定品質の向上に資する調査、研修に取り組むとともに、損害鑑定の健全な発展と社会生活の安定に資する公正・誠実・迅速な業務遂行を行う役割を担っている。

このような目的や役割を実現するにあたり、会員及び損害鑑定人は、損害を鑑定する専門家としての高度な知識、豊富な経験及び高いスキルを培うことで、公正且つ誠実な高い倫理性が求められる。そのため、会員等は、自らを律するとともに、社会の期待に応えるべく、ここに倫理規程・行動規範を定めるものとする。

## 倫 理 綱 領

### 第1条（使 命）

会員及び損害鑑定人は、公正・誠実・迅速な損害鑑定を行うことにより、健全な損害鑑定の実現と社会生活の安定に資することを使命とする。

### 第2条（使命の自覚）

会員及び損害鑑定人は、前条の使命を自覚しその達成に努める。

### 第3条（独立性及び信義誠実）

会員及び損害鑑定人は、職務上のあらゆる人間関係において、独立性を保ち信義に従い倫理的及び誠実に振る舞う。

### 第4条（法令等の遵守）

会員及び損害鑑定人は、各種法令等を遵守し、法令及び実務に精通するよう努める。

### 第5条（品位の保持）

会員及び損害鑑定人は、平素から常に人格形成と品位の保持に努める。また専門知識の研鑽及び実務経験の蓄積に努めると共に、本会が主催する研修に積極的に参加し、自己研鑽を重ね損害鑑定の品質の向上を図る。

### 第6条（信用の維持）

会員及び損害鑑定人は、業務を公正かつ誠実に行い、常に謙虚な姿勢を保持することにより、信用の維持に努める。

### 第7条（公益活動）

会員及び損害鑑定人は、その使命に相応しい公益活動に積極的に参加し、実践するように努める。

当会は、6月23日の定時会員総会において役員の改選を行い、その後の臨時理事会において、田中公成が会長に就任いたしました。これまで4年間にわたり会長を務めさせていただきました太田英俊は、退任いたしました。

## President's Message

# 会長挨拶

会長 田中 公成

このたび、太田前会長よりバトンを引き継ぎ、会長を務めさせていただくことになりました、甘糟鑑定事務所の田中でございます。

公益法人化に向け申請を行っていた2021年に監事に就任し、その後2022年に理事、2024年からは副会長として、主に損害鑑定フォーラムや総合企画委員会の運営等に携わってまいりました。また、5月にタイで開催されたACC26にも参加させていただき、AICLAを始め関係諸団体の皆さまと友好を深めると共に教育制度の運営、現況等の意見交換も行いました。

まだまだ経験が浅く未熟ではございますが、全力で務めさせていただきますので、何卒、宜しくお願いいたします。

また、副会長として、アスカ総合鑑定の伊藤社長（人材育成部門担当）、三和鑑定事務所の藤原社長（経営基盤部門担当）、高本損害鑑定事務所の高本社長（調査研究部門担当）が選任されましたので、併せてご報告させていただきます。

就任に当たり、先ずはこの場をお借りし、太田前会長の4年間のご尽力に、心より感謝を申し上げます。

太田前会長は公益社団法人としての組織、運営体制の礎を築くべく地道にご努力いただき、当協会の社会的信頼の向上や発展に貢献いただきました。

さて、2026年度の事業計画は始まっております。

ASC研修のベーシック、スタンダード、地震保険損害認定基準研修は多くの方のご参加をいただき、専門性の高い実務に則した内容で大変好評を得ました。

「損害鑑定人CPD認証制度」も来年の開始を見据え、認証試験の制度設計や運営手法、共通テキストの最終確認、CPDポイントの検討を精力的に協議しています。

本年11月に開催する「第12回損害鑑定フォーラム」や第三期に入った「女性鑑定人WG」も中堅、若手のワーキングメンバーにより企画、立案中で、鑑定人ならではの目線で、鑑定業務に有益な内容をご披露できると思いますのでご期待ください。

昨年から今年にかけて、気候変動や地震活動の活発化の影響か自然災害が多発しております。最近では6月下旬に岩手県沖、山梨県東部・富

土五湖を震源とする最大震度6強の地震があり、台風も7月上旬ですでに10個発生し、いくつかは九州、四国、本州にも最接近しました。線状降水帯が発生した地域もあり、各地で被害が出ています。

会員の皆さまに於かれましては通常業務に加え、災害対応も求められ大変ご多忙の日々が続いていると思います。

公益目的事業のひとつでもある「広域災害発

災時に公正かつ迅速な損害鑑定の推進」に向けた取り組みとして、今後発災する可能性が高い巨大地震に対する損害調査体制について、引き続き関連団体との協議を続けてまいります。

また、今後に向けた会員制度の研究や協会規約・運営の検討、見直しなど取り組む課題は多々ありますが、新体制のもと各委員会担当理事、委員ともども着実に進めてまいる所存ですので、引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



田中新会長と太田前会長

## 退任挨拶

前会長 太田 英俊

2022年度より内山元会長の後任として、会長を務めさせていただきました太田でございます。本年6月の総会をもって会長の任期を満了し、退任させていただきました。

2016年に理事に就任して以来、ちょうど10年となりましたが、2018年からは副会長、2022年からは会長として協会活動に携わってまいりました。

10年という長いようではありますが、熊本地震をはじめ、新潟県糸魚川市の大火や、大阪府北部地震、新型コロナウイルスの爆発的感染等のほか、福島県沖地震や、能登半島地震等もこの10年の間に発生したもので、全国各地で暴風や、豪雨、電災等の自然災害も多発し、会員・関係各位ともに多忙な日々が続いており、短いと感じられることもあります。そんな中、皆さまの温かいご支援とご協力により、直近の4年間は会長を務めさせていただきました。誠にありがとうございました。

当協会は1975年10月に、「日本損害保険鑑定人協会」として設立され、昨年創立50周年を迎えました。

創立から半世紀の区切りに当たり、記念式典を開催のうえ、「50周年史」を発刊いたしました。ひとえに皆さま方のご理解とご協力あつての賜物と深く感謝を申し上げますとともに、この時期を会長職で迎えましたことは、貴重な思い出となりました。

また、当協会は、損害鑑定業界唯一の団体として、業界および鑑定人の信頼性の向上とさらなる成長を目指して、2010年5月に「一般社

団法人 日本損害保険鑑定人協会」と法人化し、2020年8月に「一般社団法人 日本損害鑑定協会」へと改名のうえ、2021年11月に内閣府より公益社団法人の認可を受けて現在にいたっています。

公益法人の認可を受けたことにより、当協会は社会的に高い信頼を得た一方で、社会的責任も増す中で、度重なる大型自然災害の発生に加え、特定修理業者の暗躍等、鑑定業界を取り巻く環境が激動する中、当協会も変化への対応力を強化し、改革を進めることが求められてきました。

直近の2期4年間は会長として、損害鑑定人の業務環境改善のため、「損害鑑定人の業務範囲」について、日本損害保険協会を通じて損害保険各社へ周知・徹底を依頼したほか、公益法人としての組織運営体制の整備や、CPD 認証制度の創設に向けた共通テキストの作成、地震保険関連の意見具申、首都直下や南海トラフ等の超巨大地震に備えた対策の研究と準備等の取組みについても進めてまいりました。

今後も公益法人としての役割を自覚し、関係する機関・諸団体との連携をさらに深めながら、田中会長と新たな役員による新体制のもと、各種研修や損害鑑定フォーラム等の継続的な開催のみでなく、損害鑑定業界の課題や新たな取組みについて、研究・検討を進めていけるよう、従前にも増して、皆さまのお力添えをいただきたく、変わらぬご支援、ご協力をお願いいたしまして、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

# 理事会開催報告 2026

## 6 月 定例理事会

【日時】 2026年6月2日（火） 13:00 ～ 16:10

### 1. 会員総会運営について（協議・決議）

- ・理事、監事の改選、外部理事、外部監事の選任にあたり、略歴は付け会員の判断資料とする。
  - ・決議を得る議案は、2025年度計算書類の承認、理事改選、監事改選の3つとなる。
- 全会一致で承認決議

### 2. 2025年度事業報告案、および計算書類（2025年度決算）について（決議）

- ・事業報告は、各種研修、損害鑑定フォーラム、CPD 認証制度の研究等の実施内容を記載のうえ、新たに公益法人としてのガバナンス体制を記載することが求められ、公益法人としての運営体制充実を図る取組みを追加した。
  - ・収支は 243 万円の赤字で着地。現預金の増減は殆どない。各種活動の抑制的实施による支出の低減、研修参加費の見込み比増加等により、予算対比で改善した。
  - ・公益法人財務三基準（公益目的事業比率、中期的収支均衡、使途不特定財産制限）は、全て満たしている。
- 全会一致で承認決議

### 3. 「損害鑑定人 CPD 認証制度」準備状況と運営の方向性について（決議）

- ・CPD と認証試験の二本立て、2027 年 4 月に試験開始、認証は 2 ランクを設定しスタンダードから開始、今後はテキストの整備・完成、試験システムの確定、試験問題作成委員会と試験委員会の設置、損保会社等へ情宣を行う。本内容で総会へ提議する。
- 全会一致で承認決議

### 4. 損害鑑定人 CPD 認証制度：今後の運営等について（協議）

- ・海外の情報の入手、連携が必要。ACC26 に参加し、海外の機関と協議を実施。ANZIIF は、損害保険事業総合研究所に近い。AICLA、CILA、FUDEI 等とともに、情報交換は進めていく。

### 5. 建築士会対応 / 今後の進め方について（協議・決議）

- ・関係機関より、一部事項について承認できずとの回答であったが、建築士会連合会、損害保険協会と、継続して協議を進めていく。現時点で協定を締結することはせず、何が実現可能か、改めて検討していく方針とし、建築士会連合会、損保協会へその旨を伝達する。仮に協定締結の場合は理事会付議とする。
- 全会一致で承認決議

## 6. 入会申請について（決議）

- ・株式会社三ツ星鑑定事務所の入会申請書類が整い審査の結果、入会承認を行い支障ないと判断する。

→ 全会一致で承認、決議

## 7. 地震保険基準関連取組等について（報告）

- ・損害保険協会より求められ3月に提出した意見書を、一部微調整し5月に再提出を行った。

## 8. 公共物件の評価依頼に関する関与可否について（協議）

- ・独立行政法人の保険価額評価が必須となりつつあり、入札が行われることとなるが、当会として基本的に関与はせずに会員各社の判断に委ねる。今回の照会元には、必要に応じて会員情報を当会HPより参照いただくことなどを打診することとする。

## 9. 委員会報告・情報共有（報告）

### （１）総務委員会

- ・現場対応ガイドライン（撮影、SNS対応）等の検討可否  
会員が業務を受託している損保社の個々の意向による面等もあり、統一のガイドラインやマニュアルの作成は難しいが、啓蒙、教育は必要。定期的な研修実施等を検討していく。
- ・海外団体との協議を行う理事に肩書は必要であり、役職を付与する。

### （２）フォーラム実行委員会（状況報告）

2つのWGが始動している。基調講演者とは6月後半に第1回の打合せを予定している。

### （３）教育研修委員会

ASC研修ベーシックの会場参加は例年並み、同スタンダードの申込みは相対的に増加している。スタンダードは講座により会場とWebの双方実施を企図したが、会場参加が少なくWebへ一本化する。講師が諸事情により講義の実施が不可となった場合の対応は検討が必要。2027年度に地震保険研修を改訂する可能性があり、研修内容、教材の作成、2027年度の研修体制等で、委員の増員が必要となる。個別損保に偏らない編成も重要。新体制の三役会で検討する。

### （４）総合企画委員会

- ① ACC26への参加報告（議題4で報告済み）
- ② 女性鑑定人WGは、7/1より新メンバーで始動する。

## 6 月 臨時理事会

---

【日時】 2026年6月23日(火) 15:30 ~ 16:15

### 1. 業務執行理事の選出、顧問・相談役の委嘱(決議)

- ・ 会長(代表理事)に、田中公成を選出する。
- ・ 副会長(業務執行理事)に、伊藤優、高本吉孝、藤原昌明を選出する。
- ・ 専務理事に、永島孝司を選出する。
- ・ 顧問を内山鑑定・内山社長、相談役を福岡損保鑑定・森園社長へ委嘱する。

→ いずれも、全会一致で承認決議

### 2. 業務執行理事の業務分担、委員長の選出(決議)

- ・ 人材育成部門、経営基盤部門、調査研究部門の3部門を設置し、人材育成部門長は伊藤副会長、経営基盤部門長は藤原副会長、調査研究部門長は高本副会長とする。
- ・ 人材育成部門下に、教育研修委員会と損害鑑定人 CPD 認証制度委員会、経営基盤部門下に総務委員会、調査研究部門下にフォーラム実行委員会、総合企画委員会を設置する。
- ・ 教育研修委員長は岩泉理事、損害鑑定人 CPD 認証制度委員長は伊藤副会長、総務委員長は藤原副会長、フォーラム実行委員長は田辺理事、総合企画委員長は高本副会長とする。

→ いずれも、全会一致で承認決議

## I. 開催概要

- ・日 時：2026年6月23日（火）  
13:30～15:20
- ・会 場：損保会館 大会議室
- ・出席者：出席者31会員、議決権行使及び委任状提出31会員  
※会員総数63 理事・監事16名

### <次 第>

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 総会成立宣言
5. 総会議事

- |             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| <b>報告事項</b> | (1) 2025年度 事業報告の件                 |
|             | (2) 2026年度 事業計画の件                 |
|             | (3) 2026年度 収支予算の件                 |
|             | (4) 損害鑑定人 CPD 認証制度準備状況および運営の方向性の件 |

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| <b>決議事項</b> | 第1号議案 2025年度計算書類承認の件 |
|             | 第2号議案 理事選任の件         |
|             | 第3号議案 監事選任の件         |
|             | → いずれも承認、可決          |

6. 閉会の辞

## 主な議事等の概要

### <会長挨拶要旨>

昨年は例年に比べ大型台風は少なかったが、防風、落雷、雹災、山火事等は続発し、震度5強の地震は多く発生しました。今年も地震は多く発生しています。

多忙とされますが、新たな感染症の流行の兆しも見られ、体調には十分に留意をお願いいたします。

昨年は、ASCを始めとした各種研修、第11回損害鑑定フォーラムを無事に終了しました。

各位のご協力に感謝申し上げます。



挨拶する太田会長（提供：保険毎日新聞社）

## <2026年度事業計画>

### 1. 公益目的事業

#### ①鑑定技能および品質の向上に資する研修・試験、損害鑑定フォーラム事業の推進

- ・ASC研修は、Webでの受講者は多く、会場開催のベーシックは引き続きWeb方式も併用します。スタンダードは一部で会場開催を予定しましたが、申込者の大半がWeb受講を希望しており、Web受講へ一本化します。研修内容は、効果的かつ実務を反映し、鑑定人の育成に資するようにブラッシュアップした内容で進めていきます。
- ・地震保険損害認定基準研修は、昨年より追加した地震アプリは好評であり、引き続き実施します。日本損害保険協会依頼の地震研修への講師派遣は継続します。
- ・損害鑑定フォーラムは、11/21（土）に御茶ノ水・ソラシティで開催予定であり、会場開催を同時にライブ配信する予定で進めています。

#### ②損害鑑定の健全な発展に関する研究・調査事業

昨年、決議を得た損害鑑定人CPD認証制度では、共通テキストは事前公開に多くの会員に参画のうえ意見をいただき、今年度中には完成する予定です。認証制度は2027年4月の開始に向け準備を進めていきます。

#### ③関連団体・機関との連携・情報交換

日本損害保険協会をはじめ、関連団体・機関との情報連携等を継続します。日本損害保険協会とは、首都直下地震、南海トラフといった巨大地震発災時に必要となる調査要員の確保に向けた協議等を、継続していきます。

#### ④活動内容の普及および広報

KANTEI NEWSを継続的に発行する等により、損害鑑定人の業務の理解が深まるよう、広報を進めていきます。

## 2. 収益事業、福利厚生事業

受取会費を主な財源としつつ、各種研修の参加費、受託事業の収益を財源としています。

### <2026年度収支予算>

- 収益は、定例会費以外は各種研修受講料等であり、項目の大きな変化はなく 1億943万円を見込みます。
  - 支出は、各種研修や損害鑑定フォーラム、損害鑑定人 CPD 認証制度を始めとして、委員会やワーキンググループの活発化、日本損害保険協会との連携強化などを踏まえた支出を見込んでいます。前年は、設立50周年記念史の作成関係費が900万円ほどありましたが、2026年度は、大きく単年度に影響する費用の発生は見込んでいません。2027年度以降の地震保険損害認定基準研修は内容の改訂を要するため、準備や資料の作成費用を計上しています。損害鑑定フォーラムは、参加者の利便性を考慮し同時 Web 配信の予定です。WG 活動は、前年と同様に抑制的とした費用を計上しています。損害鑑定人 CPD 認証制度ワーキングは 2027年4月の開始に向け、共通テキストの作成から、基盤整備の費用を見込んでいます。次年度以降の運営費は、抑制的かつ効率的な運営を検討していきます。
- 以上で、1億1,003万円を見込みます。
- 当期経常損益
- 2026年度は、88万円程度の赤字を見込みます。



議決する会員

**<損害鑑定人 CPD 認証制度準備状況および運営の方向性の件>**

- ・ 2027年4月の開始を目指します。スタンダード、アドバンスの2段階を設け、アドバンスは数年後に開始します。共通テキストは、2026年3月より多数の会員に試験的公開へ応募いただき、その意見を踏まえ、順次検討を進めています。CPD ポイント、認証試験問題、試験システムを引き続き検討中です。学識経験者を交えた「試験問題作成委員会」と、出題問題を検討する「試験委員会」を設け、規律ある運営を進めいけるよう体制の構築を進めます。費用は制度参加料と受験料の徴収を予定しており、当会予算内で収まる運営とします。

**【質 問】**

- ① 共通テキストのうち、会員固有の運営に関わる箇所への論議や調整はどのように進めていくのか。確定し公開前に、再度、各会員へ意見を募る意向はあるか。
- ② CPD ポイントの対象項目は、どのように整理しているか。協会活動、海外活動等は、会員、鑑定人により機会が均等となっていない項目があるように感じる。テキストと同様に、会員より意見を募る予定はあるか。最終決定は理事会なのか。
- ③ CPD 制度の検討開始は昨年の会員総会で議決しているが、会員への影響は大きく、骨格やポイント等も会員総会で論議、決議を得るのが好ましいのではないか。現行の ASC 研修に近いと見受けられ、CPD とは異なるように感じる。会員は、全員参加なのか、希望者が参加なのか。
- ④ ポイントの対象に、外部の学会のセミナーへの参加などは鑑定人のスキル向上に寄与すると思われる、検討いただきたい。

**【回 答】**

- ① 委員会で項目ごとに議論を深めていく。利用システムでは、修正の最新版を閲覧できるため、意見を求め調整する運営を図っていく。
- ② 対象項目、付与ポイントは論議中である。協会活動、海外活動等は、鑑定人の学びに繋がると思慮している。事前に意見を募ることは検討していきたい。検討は委員会であるが、決議は理事会となる。
- ③ 各地の地域懇談会で説明や意見を聴取のうえ検討している面は考慮いただきたい。様々な考えはあると思われるが、鑑定人の技量向上という、当会に見合う CPD として検討している。多くの鑑定人に参加いただきたいが、希望者となる。
- ④ 対象として検討は行う。

**<理事選任の件>**

新たに下記の15名が信任され就任しました。任期は、2026年6月23日から2028年度会員総会終結の時までです。

| 新再 | 氏名     | 会員名            | 役職       |
|----|--------|----------------|----------|
| 重任 | 伊藤 優   | 株式会社アス力総合鑑定    | 代表取締役    |
| 新任 | 今村 裕一郎 | 西日本鑑定株式会社      | 代表取締役    |
| 重任 | 岩泉 和則  | 株式会社東鑑         | 代表取締役社長  |
| 新任 | 落合 美津夫 | 株式会社中央損保鑑定     | 常務取締役    |
| 重任 | 小関 忠司  | 内山鑑定株式会社       | 取締役      |
| 重任 | 高本 吉孝  | 株式会社高本損害鑑定事務所  | 代表取締役    |
| 重任 | 田中 公成  | 株式会社甘糟鑑定事務所    | 代表取締役    |
| 重任 | 田辺 克久  | 株式会社北海道鑑定      | 代表取締役    |
| 重任 | 樽角 保洋  | 株式会社みなと鑑定事務所   | 代表取締役    |
| 新任 | 永井 俊文  | 株式会社福岡損保鑑定     | 執行役員     |
| 重任 | 永島 孝司  | 公益社団法人日本損害鑑定協会 | 専務理事     |
| 重任 | 永松 一剛  | 株式会社永松鑑定事務所    | 代表取締役    |
| 重任 | 藤原 昌明  | 株式会社三和鑑定事務所    | 代表取締役社長  |
| 重任 | 森下 泉   | 株式会社札幌鑑定       | 取締役会長    |
| 新任 | 宮田 直紀  | あみた綜合法律事務所     | パートナー弁護士 |

**<監事選任の件>**

新たに下記の3名が信任され就任しました。任期は、2026年6月23日から2028年度会員総会終結の時までです。

| 新再 | 氏名     | 会員名                  | 役職      |
|----|--------|----------------------|---------|
| 新任 | 加藤 友好  | 株式会社名鑑               | 代表取締役会長 |
| 新任 | 野田 昇一  | 株式会社かがやき鑑定           | 代表取締役   |
| 新任 | 吉田 真奈美 | 社会保険労務士法人わかばコンサルティング | 代表社員    |

なお、理事会開催報告へ記載のとおり、同日に開催の臨時理事会において田中理事が新会長へ就任いたしました。



挨拶する田中新会長

# 研修開催報告

## 【ASC 研修】

### ベーシック

実務経験が概ね1年以上ある鑑定人を対象として、早期に習得すべき実務に直結する8講座を実施しました。

損保会館大会議室での集合方式で実施し、Web受講を希望された方は8月にオンデマンド配信で受講が可能です。

会場への集合受講者は42名、Web受講を含めると50名を超える受講者であり、例年どおり多くの経験年数の浅い鑑定人が受講しました。今年は女性が1/3を超えました。

また、初日の講義終了後には、講師も参加した懇親会を実施し、鑑定会社間を超えたつながりを持つ機会ともなりました。

### 2026年度 ASC研修 ベーシック

|           | 9:00 | 10:00          | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00              | 15:00 | 16:00 | 17:00 |
|-----------|------|----------------|-------|-------|-------|--------------------|-------|-------|-------|
| 5/26<br>火 | 会長挨拶 | 損害鑑定人のコンプライアンス |       |       |       | コミュニケーションとレジリエンス   |       |       |       |
| 5/27<br>水 |      | 賠償責任保険約款の基礎    |       |       |       | 火災保険約款の基礎          |       |       |       |
| 5/28<br>木 |      | 動産の基礎          |       |       |       | 建物の鑑定実務            |       |       |       |
| 5/29<br>金 |      | 建物積算の基礎        |       |       |       | マンションにおける保険事故の鑑定実務 |       |       |       |

### <受講者の声>

- 動画を利用している講座があり理解度を深められたのと、グループワークでの話し合いの時間も非常に有意義でした。
- この時期に、鑑定業務や自分を見直すことができたことは有意義であったと思います。
- 知識をまとめて整理するタイミングをなかなか作れていなかったなので、体系化された基礎を学ぶことができ、非常に貴重な機会でした。
- 日常業務では、他の鑑定会社の経験年数の近い方と知り合う機会が少なく、横のつながりを持てたのは良かったです。

## スタンダード

実務経験が3～5年の損害鑑定人を対象の中心とし、10講座を実施しました。単講座の申込みが可能であるため、ベテラン層で確認のため再受講する鑑定人もおられ、Web受講ながら、各講座ともに60～70名が受講しました。昨年よりも受講者は増えており、ニーズの高さがうかがわれます。なお、当初は一部の講座の会場受講を企画しましたが、Web受講の申込みが大半を占めたためWeb受講へ一本化としました。一部の方にご迷惑をおかけしました。

### 2026年度 ASC研修 スタンダード

|           | 9:00 | 10:00                       | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00                               | 15:00 | 16:00 | 17:00 |
|-----------|------|-----------------------------|-------|-------|-------|-------------------------------------|-------|-------|-------|
| 6/17<br>水 |      | 火災事故原因調査の方法                 |       |       |       | 建物の火害診断および<br>補修・補強方法指針             |       |       |       |
| 6/18<br>木 |      | 建物積算の基礎 耐火建物編<br>(マンション共用部) |       |       |       | 機械・設備装置の<br>鑑定実務と調査ポイント             |       |       |       |
| 6/19<br>金 |      | 災害復旧サービスについて                |       |       |       | 財務諸表の見方と休業損害                        |       |       |       |
| 7/2<br>木  |      | 約款解釈:火災保険編                  |       |       |       | 部下・後輩育成のコミュニケーションと<br>鑑定業務における交渉スキル |       |       |       |
| 7/3<br>金  |      | 約款解釈:賠償責任保険編                |       |       |       | モラルリスク                              |       |       |       |

### <受講者の声>

- 実務を経験され、それを意識された講義内容のため、若手の鑑定人にはとても勉強になるものでした。講師の日頃の仕事ぶりが窺えるような気がしました。
- 先輩の鑑定人から、鑑定人ならではの目線でお話していただけたことは、非常に親和性が高く頭に入りやすくて良いです。他では学ぶことのできない研修だと思います。
- Web研修の環境の中でも、グループワークを取り入れた研修が多く、他の鑑定会社の方と交流ができたり、様々な意見が聞けたのは良かったです。
- 欲をいえば、会場への集合方式で実施できると良いと思います。

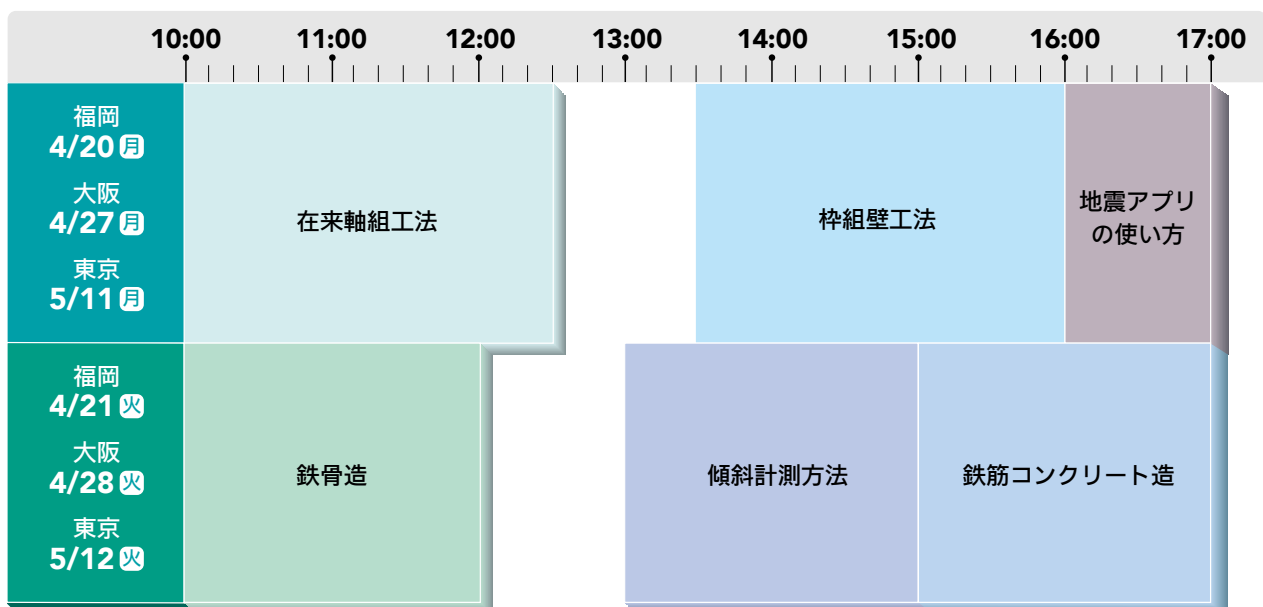
## 地震保険損害認定基準研修

福岡、大阪、東京の3か所で実施しました。

昨年度に追加した地震アプリは、好評であったため今年度も講義に追加しました。

会場開催ながら、延べ70名が受講し、人気の高い研修となりました。

地震保険損害認定基準研修



### <受講者の声>

- 知識の学習だけでなく、講師の方々が講義の中で「実務では」というお話を多く入れていただいたのは、大変、参考になりました。
- とてもわかりやすい説明と充実した講義でした。内容の難易度もちょうど良く、各講座でグループワークがあり、一人で考える時間、グループワークを行う時間と、構成がよく練られていると思いました。
- 他の鑑定会社の方と交流するきっかけができ、良い経験になりました。話し合いで、考えを深めるきっかけになりました。
- 私のように経験が浅い鑑定人が、現場に入った際にどのように査定するのか具体的に説明してくださったため、大変、勉強になりました。

## 【今後の開催予定】

次号でご案内いたします。

## ■新規入会 .....

(2026年7月1日)

株式会社 三ツ星鑑定事務所

〒810-0073 福岡県福岡市中央区舞鶴1-4-25 プリモパルティール舞鶴802

TEL:092-791-4882 FAX:092-791-4883

【代表者】 和田 浩幸

## ■代表者変更 .....

(2026年5月1日)

あおぞら総合鑑定有限公司

【新代表者】 西村 隆行

(2026年5月27日)

株式会社丸の内鑑定

【新代表者】 安藤 直之

## ■商号変更 .....

(2026年5月21日)

株式会社ホーネット鑑定

【新商号】 ビヨンドパートナーズ株式会社

## ■支社支店支所移転 .....

(2026年4月20日)

杜の都鑑定株式会社 郡山支社

【新住所】 〒963-8861 福島県郡山市鶴見坦1丁目3-7 小沼第4ビル1-A

(2026年5月27日)

株式会社福岡損保鑑定大分支社

【新住所】 〒870-0034 大分県大分市都町3丁目1-1 大分センタービル301号

(2026年6月1日)

株式会社かがやき鑑定四国支店

【新住所】 〒760-0053 香川県高松市田町11-5 セントラル田町ビル8階



公益社団法人 日本損害鑑定協会

2026年7月1日

公益社団法人 日本損害鑑定協会

〒101-8335

東京都千代田区神田淡路町2-9 損保会館12階

TEL03-3254-6454

<https://www.laaj.or.jp/>